

2006年度事業計画

国際会議の成功、本人の思いを語る、「痴呆」から「認知症」への言い替えなどにより、関心は一気に高まってきた。厚生労働省が先頭にたって「認知症を知るキャンペーン」が展開され、「家族の会」もキャンペーン事務局に加わり、その一翼を担ってきた。

「家族の会」が26年間一貫して求め続けてきた状況が始まったといえる。こうした流れの中で「家族の会」が一層その立場と組織の形態を明確にするため、名称の変更を行い、新名称を「認知症の人と家族の会」とし、新たなスタートをすることになった。

この流れを継続させ、定着させるために「ぼけても心は生きている」ことへの理解を広め、「ぼけても安心して暮せる社会を」をめざす活動を、今年度もわが国の組織・団体よりも積極的、具体的、効果的に押し進める。

・相談・支援

1. 認知症の人も参加できるつどいの実施

本人が思いを語り、ブログを開設する人も出てきた、こうした背景のもとに「本人が参加するつどい」「本人を中心としたつどい」等を開設している支部も出てきた。本人の潜在的な能力をできるだけ長く維持するため、全国的な広がりを図る。

- (1) キャンペーン事業の「本人取組みネットワーク」としての取組み（沖田）
- (2) 「本人参加のつどい」活動内容の調査（沖田）
- (3) ブロック会議で取組み状況の報告、意見交換を交わす。
- (4) 会報、ホームページなどで広報する。

2. 高齢者虐待防止に関する取組み（新提案）

06年4月より高齢者虐待防止・介護者支援者（高齢者擁護者）法が施行される。

高齢者虐待の定義は、「高齢者虐待」とは家庭での養護者または施設等の職員による虐待として 身体的暴行 養護を著しく怠ること 心理的虐待 性的虐待 経済的虐待と定義づけられている。対象は高齢者に向けられがちであるが、高齢者を介護する介護者自身、身体的・精神的疲労と経済的負担にストレス疲れがたまっている。こうした疲れが、意に反して虐待に繋がるケースが多いと思われる。こうした介護者自身の置かれている実態を調査し、介護者にどのような相談、指導、助言すべきか、そのあり方について提言・要望する。

- (1) アンケートによる実体調査
- (2) アンケートの結果をまとめ、報告する。
- (3) 厚生労働省、自治体へ要望として提案・提言する。

3. 支部活動に対する支援

「家族の会」相談活動の基本は、つどい、電話相談、会報である。会の結成以来「家族同士の励ましあいと助け合い」を基本路線を築いてきた。

若年期認知症の問題、本人が思いを語ったり、ブログを開設するなど、その活動の幅が広がってきた。「家族の会」の活動を原点に、更に活動の幅を広げていく支援活動が必要になってきた。

- (1) 電話相談の充実 <活動の基本的な考え方（すすめ方）7>
 - 支部電話相談助成を本年度も継続し、支部電話相談の充実を図る。
 - 電話相談員の研修会の開催（本部・支部）
 - 電話相談員の育成と増員（本部・支部）

(2) つどい

つどいに本人が参加するようになり、「つどい」のもち方についての研究・検討が必要である。
「家族の会のつどい」のノウハウは、地域の家族会などにも関心も高く、指導的な立場にある。
総会分科会、ブロック会議等で、つどいのもち方についての研修会、研究会を実施する。
支部のつどい等の実施事例を会報等で報告し、参考に供する。
支部ハンドブックの活用

(3) 若年期認知症の子どものネットつどい(CYD ネット) <活動の基本的な考え方(すすめ方)4 > 05年このネットつどいは試行として実施した。

試行結果は順調に結果を収め、本年度より本格的な取り組みを実施する。
若年期認知症専門委員会が中心となって実施する。
施行期間に設置したCYD ネットつどいの委員会は継続する。
施行期間の結果とアンケートで、ネット運営方法を改善して実施する。

(4) ブロック会議の開催

ますます複雑になる支部活動、ブロック会議の開催意義はますます重要になってきた。
全国共通テーマの設定
ブロック会議の運営についての見直し
支部の日常かかえている問題について、協議・意見交換を行う。
支部間の交流と親睦を図る。

・啓発

1. 世界アルツハイマーデーに対する取り組み

啓発活動として、世界アルツハイマーデーは、本年度も「認知症を知るキャンペーン」の重要な位置付けとなろう。また、活動に参加する対象も行政、本人と従来にました活動の展開が予測される。

(1) ポスター、リーフレットの作成

(2) 全国一斉街頭活動の実施

行政などに積極的呼びかけるとともに、本人などの協力を求め、全国的な啓発の輪を広げる。

実施日 2006年9月17日

(3) 世界アルツハイマーデー記念講演会

本部主催(京都、東京)

支部主催講演会の開催

支部で開催する講演会には、本部より開催費用の一部を支援する。

リーフレット、ポスター、啓発冊子「家族が認知症ではないかと心配しているあなたへ
少し介護の先輩からのアドバイス」、「家族がつくった認知症早期発見のめやす」カード
等の啓発グッズを有効に活用する。

(4) 世界アルツハイマーデーの標語募集

(5) 厚生労働省の後援と大臣のメッセージ

2. 認知症啓発資料の有効活用

05年度事業として完成させた啓発資料「家族が認知症ではないかと心配しているあなたへ
少し介護の先輩からのアドバイス」、「家族がつくった認知症早期発見のめやす」カードを
地域での講演会や支部のつどい、行政や関係団体に配布して、認知症についての啓発と理解の

推進を図る。

3. 家族の会ホームページの充実

「家族の会」ホームページは「子ども向けホームページ」と合わせて認知症啓発の役割は大きい。
また会報「ぼ～れぼ～れ」とともに情報提供の大きな役割を果たしている

- (1) 見やすいホームページとしてのデザイン、レイアウトの工夫
- (2) ホームページを通じた相談、情報交換の推進
- (3) 子ども向けホームページ「おばあちゃんどうしたの?」の学校教材としての普及

. 専門委員会と調査・研究委員会

1. 介護保険の改善を求める

- (1) 05年度実態調査「認知症の介護世帯における費用負担」の細部検討。
- (2) 調査報告書の作成と公開
- (3) 厚生労働省、自治体等への要望書提出

2. 専門委員会と調査研究委員会の取組みと主要テーマ

- (1) 介護保険・社会保障専門委員会
- (2) 人権問題専門委員会
- (3) 広報・啓発専門委員会
(会報編集委員会)
- (4) 特別委員会
ビジョン検討委員会
若年期認知症委員会
国際交流委員会

. 組織・財政問題

1. 組織問題

活動の最前線としての支部の強化は、最大の課題である。支部の活動の要となる事務局の設置も緊急の課題である。

- (1) 支部世話人の高齢化に伴い後継者育成に向けての積極的な取組みが必要である。
支部世話人の意欲の昂揚
メンバーシップ(果たさなくてはならない態度や役割)としての意識を図る。
教育・研修の実施
- (2) 100名未満支部、組織として伸び悩んでいる支部への対応
原因の究明
個別的な指導
- (3) 未組織県の対応
現在具体化しつつある山口、福井、香川、沖縄への指導と本部からの支援強化
- (4) 事務所設置を目指す。
社協や関連団体等への働きかけ
見込み団体への本部からの支援
年度内設置を目標とした支部を設定する。

2. 財政問題

財政については本部・支部ともに厳しい状況下にある。会員の増加による財政の安定を基本としつつ、他の財源獲得に努める。

- (1) 会員の拡大 目標の設定と意識した活動の展開
- (2) 助成金団体などの情報と助言
- (3) 「杉山孝博 Dr の認知症の理解と援助」による支部支援

. 機関誌の発行

会報「ぼ～れ ぼ～れ」の発行

キャッチフレーズ 「本人と家族と社会をつなぎ、勇気を与えるぼ～れぼ～れ」

介護している家族の人を励まし、支え、情報提供とともに、本人の支援を会報の主眼にして編集に取組む

. 全国研究集会

第22回全国研究集会

担当支部 山梨県支部

開催日時 2006年11月12日

会場 山梨県甲府市・県民文化ホール

テーマ 「認知症の早期発見・その必要性和支援のあり方
- ぼけても安心できる地域社会のために! - 」

. 調査・研究

テーマ 未定

高齢者虐待に関する実態調査が決定すれば、高齢者虐待防止・介護者支援法に関するテーマにしてはどうか

. 国際交流

国際交流委員会

1. 2006年度テーマの設定

「ケアでつなげる地球家族」

2. アジア会議へ代表団派遣(4月27日～29日)

韓国・ソウルで開催

3. 2006年度ADI国際会議(10月12日～14日)

ドイツ・ベルリンで開催

. 日本興亜福祉財団助成交流

日本興亜福祉財団助成交流・研修

(財)日本興亜福祉財団の助成(委託)を受けて、支部主催でリフレッシュ旅行を実施する。

2006年度実施支部 25支部